

## 「全鍍連」 2022年 11月号 組合員の広場

群馬県鍍金工業組合

鹿沼 雅和 (株)バイソン 代表取締役

「少年野球を通じて」

群馬県鍍金工業組合青年部会長の鹿沼です。

私事ではございますが少年野球の指導者を12年ほどしております。

自分自身小中高と野球をしてきて息子が少年野球チームに入ったのをきっかけに、保護者コーチとして関わってきました。

息子が卒団した後もチームの指導者として現在に至ります。

チームの一員となりまずカルチャーショックを受けたのは、子供たちが年齢関係なく友達のように接していたことでした。自分たちが野球をしていた時代では、一つ年が違っただけで大先輩であり、友達のようになど考えられないことでした。もちろんある程度の情報は聞いていたので理解はしていましたが、実際に肌で感じるのでは違いがありました。自分自身古い考えがどこかにあったのは事実です。古き良き時代と称される反面、古き悪しき慣習。躰という名の体罰。子供との接し方や指導方法にずいぶん悩まされました。ただ子供たちと同等に接することで見えてくることも多く、頭ごなしに怒ることは止め話を聞いて一緒に考えると、自然と心を開いてくれる。縦社会が指導者も含めての横社会になると、見えなかったことが見えてくる。もちろん親しき中にも礼儀ありですが、今に合った指導方法を模索中です。

一番大事にしていることは、子供たちがやりたいと言った時、まずはやらせてみること。初めからダメだ、出来ないよとは言わず無理だと思っても自ら言ったことに対しては試みさせます。結果できなかつたら一緒に考え次に繋げるようにして、子供たちがモチベーションを維持できるように心がけています。

チーム事情としてはなかなか子供が集まらないことが最大の課題です。私が子供の頃はスポーツクラブと言えば野球でした。今は選択肢が増えた上での少子化問題。指導者として関わり始めたころ私達の地域では60チームほどありましたが、十数年の間に20チーム減少の40チームほどになっています。改めてこの現実を見ると、野球文化の体質を変えていかなければ子供は集まらないと切に感じています。野球だけに限らず、子供たちがのびのびと遊べる場所がないのも寂しいと感じます。子供たちが希望を持てる社会、夢のある社会になるよう微力ながら地域貢献の役に立てたらと思っています。

野球好き子供好き親父の戯言でしたが、コロナ禍で集団行動が難しい今、温かい気持ちで子供たちを見守ってきたいです。